

TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE

# 東京農業大学教職課程 *Annual Report*

令和3年度版



## 農大教職課程 × SDGs 農学ベースの SDGsへの取り組み

SDGs(持続可能な開発目標 *Sustainable Development Goals*) は 2015 年の国際連合総会において全会一致で採択された 2030 アジェンダです。17 の大目標（ゴール）と 169 の小目標（ターゲット）から構成されています。「誰一人取り残さない *No one will be left behind*」をスローガンとした SDGs は、現在世界の様々な地域や分野で取り組まれ、2030 年のゴールを目指しています。日本の新しい学習指導要領では、前文および総則に、一人一人の生徒が「持続可能な社会の創り手」となるために学校教育の果たすべき役割が明記され、各教科・科目等の指導を通しての SDGsへの取り組みが期待されています。農大教職課程ではすでに「持続可能な開発のための教育 (ESD)\*」を意識した授業を実施しており、農業科教育、理科教育、技術科教育の各研究室では教科横断的な視座からの教材開発に取り組んでおります。

本アニュアルレポートでは、理科教育研究室武田晃治教授、技術科教育研究室實野雅太助教による SDGs・ESD 教材開発を具体的にご紹介するとともに、「授業実践への扉」として若手 OB・OG による SDGs 授業実践を紹介します。

\* 2002 年「持続可能な開発に関する世界首脳会議（環境開発サミット）」で日本政府および NGO が「持続可能な開発のための教育 *Education for Sustainable Development(ESD)*」を提唱しました。2005 年～2014 年を「国連持続可能な開発のための教育の 10 年 *United Nations Decade of Education for Sustainable Development(UNDESD)*」とすることが国連総会で採択され、ユネスコが ESD の主導機関となりました。現在、2019 年のユネスコ総会で採択された国連総会で承認された「持続可能な開発のための教育：SDGs 実現に向けて（ESD for 2030）」として、国際的な実施枠組みで展開中です。



# 令和2年度 農大教職課程世田谷・厚木キャンパス 主な活動報告

令和2年度はコロナ禍のため、教職課程主催の教育研究フォーラム及び各種講習等は延期・中止、またはZOOMライブ配信や教材配信により実施しました(★:教材配信 ☆:ZOOMライブ配信)

<b>4月</b>	新入生教職課程ガイダンス★ 令和2年教員採用試験直前対策講座開講☆ 令和3年度教員採用試験大学推薦学内説明会及選考☆
<b>5月</b>	教員採用試験教育法規・學習指導要領勉強会★ 4年生教育実習開始
<b>6月</b>	教員採用試験1次対策講座開講☆ 新入生教職課程履修申込ガイダンス★
<b>7月</b>	1年生教職課程履修申込 介護等体験への派遣開始
<b>8月</b>	免許状更新講習開催(必修領域)★ 教員採用試験2次対策講座開催☆

<b>9月</b>	令和2年度教員採用試験対策講座開講☆ 教員採用試験合格者から学ぶ
<b>10月</b>	1年生教職課程履修開始
<b>11月</b>	教職実践演習(現地演習)学内説明会☆ 教員採用試験対策講座・教員採用試験合格者から学ぶ☆
<b>12月</b>	世田谷・厚木合同第5回教育実習全体指導★
<b>2月</b>	現地演習報告会☆ 免許状更新講習開催(選択領域)
<b>3月</b>	卒業式(教員免許状授与)



## ■本学で取得できる免許状\*

### ■普通免許状

学科	中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
農学部		
農学科	理科	理科・農業
動物科学科	理科	理科・農業
生物資源開発学科	理科	理科・農業
デザイン農学科	—	農業
応用生物科学部		
農芸化学科	理科	理科・農業
醸造科学科	理科	理科
食品安全健康学科	理科	理科・農業
栄養科学科	理科	理科
生命科学部		
バイオサイエンス学科	理科	理科・農業
分子生命化学科	理科	理科・農業
分子微生物学科	理科	理科・農業

学科	中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
地域環境科学部		
森林総合科学科	理科・技術	理科・農業
生産環境工学科	理科・技術	理科・農業
造園科学科	理科	理科・農業
地域創成科学科	—	農業
国際食料情報学部		
国際農業開発学科	理科	理科・農業
食料環境経済学科	社会	地歴・公民・農業
国際バイオビジネス学科	—	農業
国際食農科学科	—	農業

### ■栄養教諭免許状

学科	免許状の種類
応用生物科学部	一種免許状
栄養科学科	

## 令和2年度 教職課程履修者数

学年	1年生(2020)												2年生(2019)												3年生(2018)												学科計						
	人數	農業	中学理	高校理	技術	社会	地歴	公民	情報	栄養	人數	農業	中学理	高校理	技術	社会	地歴	公民	情報	栄養	人數	農業	中学理	高校理	技術	社会	地歴	公民	情報	栄養	人數	農業	中学理	高校理	技術	社会	地歴	公民	情報	栄養			
農学科	25	21	11	13	*	*	*	*	*	*	27	19	16	17	*	*	*	*	*	*	32	22	13	16	*	*	*	*	*	*	36	18	12	19	*	*	*	*	*	120			
動物科学科	26	12	16	17	*	*	*	*	*	*	25	13	11	13	*	*	*	*	*	*	22	8	17	18	*	*	*	*	*	*	35	23	18	20	*	*	*	*	*	108			
生物資源開発学科	21	6	17	20	*	*	*	*	*	*	16	6	12	14	*	*	*	*	*	*	24	8	16	17	*	*	*	*	*	*	61												
デザイン農学科	7	7	*	*	*	*	*	*	*	*	5	5	*	*	*	*	*	*	*	*	10	10	*	*	*	*	*	*	*	*	*	22											
応用生物科学部																																											
農芸化学科	9	2	8	9	*	*	*	*	*	*	9	2	9	9	*	*	*	*	*	*	8	3	8	8	*	*	*	*	*	*	19	4	16	17	*	*	*	*	*	45			
醸造科学科	12	*	9	12	*	*	*	*	*	*	2	*	2	2	*	*	*	*	*	*	11	*	10	11	*	*	*	*	*	*	5	*	5	5	*	*	*	*	*	30			
食品安全健康学科	9	1	7	8	*	*	*	*	*	*	2	*	2	2	*	*	*	*	*	*	4	0	4	4	*	*	*	*	*	*	15												
栄養科学科	13	*	3	3	*	*	*	*	*	*	11	10	*	*	*	*	*	*	*	*	10	20	*	1	1	*	*	*	*	*	*	20	22	*	5	6	*	*	*	*	65		
バイオサイエンス学科	15	*	14	15	*	*	*	*	*	*	10	1	10	10	*	*	*	*	*	*	25	5	24	25	*	*	*	*	*	*	19	3	18	18	*	*	*	*	*	69			
分子生命化学科	15	2	12	13	*	*	*	*	*	*	14	1	13	14	*	*	*	*	*	*	17	2	16	16	*	*	*	*	*	*	10	1	10	10	*	*	*	*	*	56			
分子微生物学科	14	2	13	13	*	*	*	*	*	*	16	3	16	16	*	*	*	*	*	*	15	4	13	15	*	*	*	*	*	*	17	3	16	16	*	*	*	*	*	62			
森林総合科学科	21	9	12	13	9	*	*	*	*	*	26	12	16	18	15	*	*	*	*	*	13	4	9	10	3	*	*	*	*	*	16	12	12	12	7	*	*	*	*	76			
生産環境工学科	19	8	11	14	4	*	*	*	*	*	20	13	10	10	12	*	*	*	*	*	22	7	14	15	12	*	*	*	*	*	10	4	8	8	3	*	*	*	*	71			
造園科学科	8	3	6	6	*	*	*	*	*	*	5	2	2	3	*	*	*	*	*	*	14	11	5	5	*	*	*	*	*	*	9	7	6	6	*	*	*	*	*	36			
地域創成科学科	9	*	*	*	*	*	*	*	*	*	6	6	*	*	*	*	*	*	*	*	7	*	*	*	*	*	*	*	*	*	4	4	*	*	*	*	*	*	*	*	26		
国際農業開発学科	21	12	13	13	*	*	*	*	*	*	14	10	7	7	*	*	*	*	*	*	26	23	13	15	*	*	*	*	*	*	32	22	24	25	*	*	*	*	*	93			
食料環境経済学科	25	13	*	*	*	*	*	*	*	*	17	11	*	*	*	*	7	7	2	*	*	25	15	*	*	*	*	10	13	5	*	*	24	13	*	*	*	7	15	11	*	*	91
国際バイオビジネス学科	2	2	*	*	*	*	*	*	*	*	3	3	*	*	*	*	*	*	*	*	10	2	*	*	*	*	8	*	*	3	*	11	7	*	*	*	1	*	*	7	*	26	
国際食農科学科	13	13	*	*	*	*	*	*	*	*	5	5	*	*	*	*	*	*	*	*	6	6	*	*	*	*	*	*	*	*	*	6	6	*	*	*	*	*	*	*	*	30	
世田谷 計	205	76	108	119	13	13	17	10	0	11	159	69	87	91	27	7	7	2	0	10	223	89	117	125	15	18	13	5	3	20	204	86	120	123	10	8	15	11	7	21	791		
北方園農学科	12	12	*	*	*	*	*	*	*	*	15	15	*	*	*	*	*	*	*	*	23	23	*	*	*	*	*	*	*	*	*	18	18	*	*	*	*	*	*	*	*	*	68
海洋水産学科	11	*	9	11	*	*	*	*	*	*	18	*	17	18	*	*	*	*	*	*	11	*	10	11	*	*	*	*	*	*	18	18	*	*	*	*	*	*	*	*	*	58	
食香粧化学科	4	*	4	4	*	*	*	*	*	*	8	*	8	8	*	*	*	*	*	*	8	*	8	8	*	*	*	*	*	*	9	*	9	*	*	*	*	*	*	*	*	29	
自然資源經營学科	8	*	*	*	*	*	6	*	8	*	6	*	*	*	*	3	*	6	*	*	9	*	*	*	*	*	5	*	9	*	*	12	*	*	7	*	12	*	*	35			
オホーツク 計	35	12	13	15	0	6	0	8	0	0	47	15	25	26	0	3	0	6	0	0	51	23	18	19	0	5	0	9	0	0	57	18	27	27	0	7	0	12	0	0	190		
大学 計	319	134	165	184	13	19	17	18	0	11	279	127	151	161	27	10	7	8	0	10	362	160	181	195	15	23	13	14	3	20	343	148	184	198	10	15	15	23	7	21	1303		

\*各学年、入金実績より算出

# 農大教職課程 × SDGs

## 農大教職課程教員による SDGs 教材開発

### ザリガニSDGs

理科教育研究室 武田晃治教授



外来種としてよく話題にあがるアメリカザリガニは、環境省・農林水産省の生態系被害防止外来種リストで緊急対策外来種に指定されており、積極的に防除を行う必要があるとされています。ただ私は、アメリカザリガニを一方的に駆除・殺処分対象とするのではなく、アメリカザリガニをきっかけとして、学校などの普段の教育の中で「自ら住む地域環境や外来種問題」、「生物飼育や生物の命」について考える機会を設ける必要性を感じています。現在私は、アメリカザリガニの有用資源としての可能性にも着目し、教育、環境、食料分野につながる資源開発研究について取り組んでいます。

カラフルザリガニ（写真）は、私が理科で学ぶ生物濃縮を視覚化した教材として開発しました。生物濃縮と聞くと悪いイメージがあるかもしれません、餌に含まれる食用色素により、いろいろな色の



ザリガニを作り出すことができます。これは、サケやイクラがオレンジ色になる仕組みと同じです。サケはもともと白身魚で、食物連鎖の過程で捕食する餌に含まれる主にアスタキサンチンという色素が蓄積することでオレンジ色になっています。アスタキサンチンは抗酸化作用を持ち、様々な分野に活用されています。カラフルザリガニを活用し、マクロな視点での見た目の体

色変化を飼育を通じて観察し、得られた脱皮殻を用いた化学実験によるミクロな視点での体色の要因物質の抽出・分離実験を取り入れた科学教育授業を開発しています。また、環境教育を組み合わせ、環境保全の一環で駆除したアメリカザリガニを活用した科学教育への取り組みも行っています。

アメリカザリガニは欧米、中国では食用資源とされています。日本では昭和2（1927）年に食用ウシガエルの餌として入り、繁殖力が強いことからも日本全国に生息域を拡大しました。有志団体により駆除活動などが行われていますが、持続可能な資源としての活用は進んでいません。そこで私は、環境や科学教育での教育資源だけでなく、安心・安全な食用・農業用資源としての資源開発研究にも取り組んでいます。

### 水とSDGs

技術科教育研究室 實野雅太助教



人間が利用可能な真水（淡水）は地球全体の0.02%と言われています。水は飲料水としてだけでなく、農業にも利用されています。現在の農業は、水を大量に消費しています。海水を淡水化する技術は多くの燃料を使っているので、「我々は燃料を飲んでいる」とも言えます。また、海水淡水化技術は様々な薬剤の投入やフィルターの利用など、環境負荷が問題となっています。最大の問題は、海水から水を取り出した後の濃縮排水を海に放出していることです。塩分の濃い海水は深海へ沈み、浸透圧差で改訂の生態系を破壊します。これでは持続可能な社会には到達しないでしょう。

私は現在、自然エネルギーである太陽熱を利用して淡水化を行う装置を開発しています。使う材料は、安くよく利用されているものを念頭に置いています。太陽熱温水器の吸熱管をベースに蒸留法で淡水を取り出します。吸熱管は真空断熱のため、中は沸騰状態でも外側は触っても冷たい状態です。淡水化装置（写真）は少々大きいので、学校で体験可能なサイズ（吸熱管の長さ50センチ）も作製しました。

水の精製量は少ないですが、節水農業には最適です。点滴灌漑による水の有効活用は、これから時代に必要なノウハウです。また、東日本大震災から10年を経た今、避難先での水の確保を考える防災教育教材にもなると考えています。



### 令和2年度免許状更新講習（選択領域）



本年度はコロナ禍により延期していた選択領域を令和3年2月12日（金）～14日（日）に面对授業で行いました。12日は本課程主任の上原巖教授が世田谷区の公園・緑地を案内し、身近な自然観察を行いました。13日は實野雅太助教がロボットプログラミング実習や木材加工実習を担当しました。14日は武田晃治教授が活性酸素に関する講義と活性酸素とDNAとを組み合わせて教材開発した実験実習を担当しました。



### 編集人 MEMO

武田先生、實野先生の開発した教材を授業実践に活用したい方は、農大教職課程へお問い合わせ下さい。

kyosyoku@nodai.ac.jp

# 農大教職課程 OB・OG×SDGs

## 授業実践への扉

### 外来種アメリカザリガニから始める環境・科学教育 埼玉県桶川市立桶川東中学校 真保都先生

今、世界では、開発と環境保全の両輪で物事を捉える必要性が叫ばれています。中学校3年の理科では、「自然と人間」の单元で自然環境の保全について考えるとともに、持続可能な社会をつくっていくことが重要であることを認識させます。

そこで私は本単元において、環境問題につながる外来生物や生物濃縮の問題を取り上げました。生徒にとってアメリカザリガニは身近な生物である一方、要注意外来生物であることから、環境保全を考えるきっかけに適した生物です。また餌で体色を変えることが可能であるため、体色変化させたアメリカザリガニを使って生物濃縮について考えさせました。

「環境問題」と言うと、生徒にとってはどこか遠いところの話のように考えてしまいますが、授業を通して生徒たちに「身近なものが自分たちと繋がっている」ことを考えさせ、環境問題というものの本質に迫りました。

外来生物や生物濃縮の問題はSDGsの「15. 陸の豊かさを守ろう」に関

係しています。まずは世界で起こっていることを自分ごととして捉えさせ、一つの物事をあらゆる側面から考えることのできる生徒を育成していきます。



### 中学校におけるSDGs教育の取り組み

千葉県柏市立逆井中学校 本田朋己先生

現在、逆井中学校の2学年では、SDGsについて啓発ポスター作り（家庭科）を行い、特別の教科道徳でも内容項目や題材に合わせて考える機会を設けており、一部、教科横断的に取り組んでいます。私が担当する理科では、今年度、気象と天候の分野にて、気候変動や異常気象などの単元を取りあげました。気象の仕組みから過去、現在そして未来の気象について考え、現状への対策、今自分に何ができるのか考える機会を持ちました。

目下、学期末は理科の授業のまとめとしてレポート作成を行っています。来年度から始まる「新学習指導要領」、「GIGAスクール」を見据え、物理、化学、生物、地学の既習事項の発展的な内容を自ら書籍やインターネットを用いてレポートとしてまとめ、相互評価を行います。レポートは、SDGsの17の目標のいずれかに関連させています。具体的なテーマは「気象衛星とSDGs」「豊かな海の生物」「今と昔の異常気象」などです。調べていくうちに、世界全体の大きな問題だが、自分にもできることがあるというこ

とに気づく生徒がほとんどでした。まずは「知る」ことが最も重要です。特に理科という科目は関連することが多いため、これからも授業に取り入れていきたいと考えます。



生徒作成のポスター

### つくるを越えた繋がるで、農業に活力を

茨城県立水戸農業高等学校 安部由香子先生

本校では食品科学部の生徒を中心にカカオガールズを立ち上げ、熱帯作物であるカカオに着目したプロジェクト学習を通じて、ESD（持続可能な開発のための教育）を行っています。カカオ豆の主な生産国はアフリカ大陸や東南アジア等の発展途上国であり、カカオを主原料とするチョコレートの消費国とは別の地域です。その矛盾に疑問を抱いた生徒たちが、食品加工に携わる者としての責任を感じ、動き出しました。主な活動内容は、カカオ苗の栽培管理、地元産農作物を活用したカカオ加工品の製造、フィリピンのカカオ農家との交流です。日々目にする当たり前を、違った視点から考え直すことで、生徒たちの多角的な視野や考え方を養っています。また、カカオ豆の製造には多くの微生物が関わっており、良質なカカオ豆の製造には適切な発酵作業が必要不可欠です。その点も、カカオ豆が農業高校での学習教材として興味深い点であると感じています。カカオガールズプロジェクトとSDGsを関連付けることで、目標や活動内容が明確に

なり、生徒たちの国際感覚を養う足がかりとなるだけでなく、地域の魅力を新たに発見するきっかけにもなっています。

現在は多くの活動が制限されておりますが、国際的な交流をもつことだけがESDではありません。SDGsのスローガンにもある“誰も置き去りにしない”教育環境の実現に向けて、感染症に負けない教員の思考力そして適応力が試されているのではないでしょうか。



# 教職課程研究室紹介

## 厚木キャンパス・理科教育研究室 加納一三先生

加納先生は平成31年度4月に厚木キャンパス農学部教職課程理科教育研究室の専任教員として着任され、教員採用試験対策指導なども担当されています。教育現場での対応を踏まえた加納先生の丁寧な指導には定評があり、多くの学生が研究室へ相談に訪れています。研究室には様々な工夫を凝らした教材も用意されています。コロナ禍の緊急事態宣言下、編集人がインタビューしました。

### Q. 農大のご出身とうかがいましたが、大学では何を学びましたか。

A. 農学科で育種学を専攻しました。ご指導いただいたのは近藤典生先生で、マダガスカルを中心に世界中をフィールドにして調査研究を行っておられ、私はこの先生に憧れて1年生の時から研究室に入れていただきました。当時の農大育種学研究所（現進化生物学研究所）は世界の秘境から集められた不思議な動植物、標本、化石でいっぱいでした。植物組織培養技術を使った育種を学んでいたのですが、それ以上に研究所で多様な生物の実物に触れた経験がその後の教員生活に活きました。

### Q. どのような教員生活でしたか。

A. 勤めていた高校には理数科があったことから実験実習に力を入れ、また私立で異動がないため時間をかけて実験室を整備してGFP遺伝子を扱う実験やPCR実験など高校としては高度な実験実習を生徒たちに体験させることができました。さらに生徒たちを毎年富士山に連れて行き、植生の垂直分布を観察させました。

一方、夏休みは海外の熱帯多雨林から乾燥荒原まで様々な生物とその生息環境を見て歩き、授業中に映像を交えて紹介しました。ある年、乾燥地帯の植物を求めてナミブ砂漠をレンタカーで移動した際、砂にスリップして横転事故を起こしたことがあります。たまたま通りかかった車に助けられたのですが随分無茶なことをやっていたと今では思います。写真1はその時に撮影したアロエ・ディコトマです。命懸けで出会うことができた植物でした。実体験を通じて生き物の世界を追い続ける教員の姿を生徒たちに見せることができたのではないかでしょうか。

### Q. 研究テーマは何ですか。

A. 研究室では多彩な実験や観察とフィールドワークの指導ができる理科教員の育成を目指して様々な実験実習を行っています。また、教育実習に向けて学生各自がしっかりととした授業計画を立てて学習指導案の作成ができるようにするためにどのように指導するか、教員を志望する学生に採用までの道筋をどのように付けるかが大きな課題であり、研究テーマです。

私個人としては分布拡散による種分化をテーマに取り組んでいます。ナミブ砂漠で多肉植物を見た時、点々と

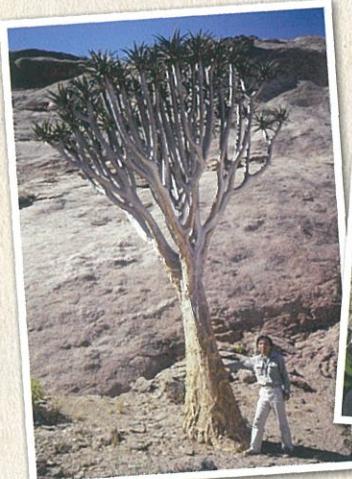
続く群落が分布の中心部から離れるに従い形態を連続的に変化させていく様子を観察しました。自然選択とは異なる、分布を拡げる過程で形態が変化して多様な種を生む種分化の仕組みに興味を持ち、今はミヤマシロチョウとハオルシアを材料にしてその過程を追っています。

### Q. ライフワークは何ですか。

A. 叔父の戦死した北ソロモンのブーゲンビル島で、戦没者の慰靈活動と遺骨の日本へのご帰還のお手伝いを農大の学生時代から続けています。写真2は日本軍の蛮行に反感を持っていた地域の人たちと「和解の儀式」を行っているところです。寝かせた豚に双方が足を掛け、弓と矢を折る島の伝統の儀式です。長く難しい交渉でしたが、島で養鶏指導をしていた農大出身の青年海外協力隊員の強いサポートにより和解に至りました。その後は島の山岳部の日本軍陣跡にも入れるようになり、多くの遺骨のご帰還に繋がりました。

### Q. 農大生にどのような教員になってほしいですか。

A. 横井時敬先生の教え「稻のことは稻に聞け、農業のことは農民に聞け」を実践できる教員です。生物や自然現象から直接学ぶこともさることながら、横井先生の教えを学校教育の現場に置き換えて、生徒と保護者から真摯に学び続けることが出来る教員になってほしいと思います。



1. 平成2年8月  
ナミビアにて



2. 平成16年8月 パプアニューギニア・ブーゲンビル島にて

### 編集人 MEMO

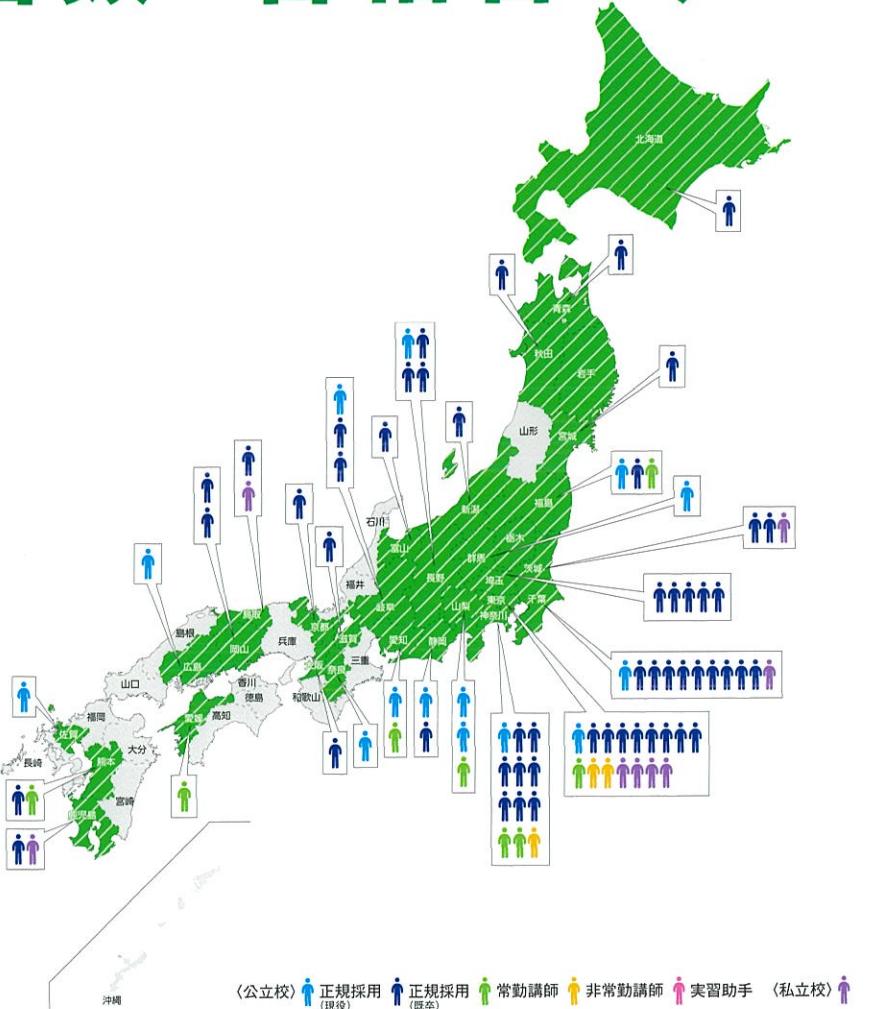
いくつになっても学び続ける好奇心と優しさに溢れた加納先生に農大愛を感じました！

# 令和3年度 教員採用者数&合格者の声 //

採用種別	人数
●正規採用（公立）	69 (53)
●常勤講師（公立）	8 (0)
●非常勤講師（公立）	3 (1)
●実習助手（公立）	3 (2)
●栄養教諭（公立）	1 (1)
●正規採用（私立）	2 (0)
●常勤講師（私立）	2 (1)
●非常勤講師（私立）	5 (0)
<b>総計</b>	<b>93 (58)</b>

※令和3年4月1日現在。カッコ内は既卒者。

※大学院生・科目等履修生は既卒者扱い。



## 教員採用試験対策講座 —若手先輩教員から学ぶ—

令和2年度はZoomによるライブ講話となりました。第1回は9月19日、横浜市立新羽中学校理科教諭の梅本蒼太先生、秋田県立大曲農業高等学校農業科教諭の今野翔太先生、都立石井特別支援学校教諭の守屋鼓太郎先生の3名、第2回は12月5日、筑西市立下館南中学校理科教諭の小澤星先生、さいたま市立北浦和小学校栄養教諭の長谷川菜々子先生、静岡県立浜松湖北高等学校農業科教諭の山崎正訓先生の3名です。前半は教育実習の経験、採用試験合格に至る勉強法、現在の仕事についてお話しいただき、後半は受講生の質問や悩みに答えていただきました。最後は全員で常磐の松風・青山ほとりを熱唱しました。受講生からは現職教員の本音が聞けて良かった、民間企業を経ての経験談が参考になったなど、大変好評でした。



※公立校正規採用合格者数の集計につきましては、全国の各教育委員会にご協力をいただきました。誠にありがとうございました。



## 神奈川県公立中学校合格（理科）



教職課程の仲間や先生は教員になる上で大きいものです。教採対策など1人で悩みがちになりますが、周りで支え合ったり、協力することで明るい未来が訪れるはずです。努力は裏切りません。ガンバってください！！

(農学科・令和3年3月期)

## 静岡県公立高校合格（農業）



夢や目標を最後まで諦めずに頑張ってください。自分は合格できるという気持ちを常に持ち、自分を信じて頑張ってください。私は周りの人の支えや協力で合格することができたので、周りの人とも協力して乗り越えてください。

（農学科・令和3年3月卒）

## 岐阜県公立高校合格（農業）



私は元々農業高校出身で、教員を目指して進学しました。教員採用試験は勉強や小論文、面接とやる事が多く大変に思えますが、生徒との交流が好きなら、全然苦にならないと思います。好きな事を職に、頑張ってください！

（畜産学科・令和3年3月卒）

## 山梨県公立高校合格（農業）



私は教職課程で学んで、学校に対する考え方や自分の生き方に対する考え方方が大きく変わりました。「もしかして先生になっちゃうかもしれない!?」というワクワクを大切にぜひチャレンジしてみてください！

（畜産学科・令和3年3月卒）

## 横浜市公立中高合格（理科）



教採の勉強は辛く、大変なこともあると思いますが、皆さんの周りには同じ目標を持った仲間がいます。良い仲間、時にはライバルとして高め合いながら頑張ってください！私も4月から頑張ります！

（生物応用化学科・令和3年3月卒）

## 長野県公立高校合格（農業）



農業高校の先生になりたくて農大に入りました。学科で農業の教員免許を取る人は少ないのですが仲間を見つけることが大変でした。でも教職を続けて取っていたら自然と友達がたくさんできました。仲間は大切です。

（生物応用化学科・令和3年3月卒）

## 千葉県・千葉市公立高校合格（理科）



高校卒業時に担任の先生から頂いた言葉があります。「教員になるのなら人の生き方を見なさい。」たくさんの人出会い、支えられた4年間でした。後輩の皆さんも出会いから学び、自分の教育観を大切にしてください。

（バイオサイエンス学科・令和3年3月卒）

## 愛知県公立中高合格（理科）



教員になることは小さい頃からの夢でした。同じ志を持つ仲間と出会い、励まし合いながら学びを進めていきました。特に受験直前では深い友情が生まれました。今では一緒に笑い合っていることに感謝でいっぱいです。

（森林総合科学科・令和3年3月卒）

## 広島県公立中高校合格（理科）



教職課程は教員になるための勉強はもちろんですが、沢山の教員を目指す友達や、優しい先生方に出会えます。少しでも興味があれば挑戦してみて下さい！私も大学院で教育の勉強を頑張ります。

（大学院進学者への特例、分子微生物学科・令和3年3月卒）

## 佐賀県公立中学校合格（技術）



教員採用試験の対策は早く始めれば始めるほど有利になるので、少しづつでも早めに始めて下さい。そして、毎日コツコツやることが大切です。目標に向かって頑張ってください。みなさんが合格されることを願っています。

（森林総合科学科・令和3年3月卒）

## 山梨県公立中学校合格（理科）



教職課程履修のきっかけは、進路の幅を広げるためでしたが、授業を通して次第に教員の仕事のやりがいや魅力を見出し、志すようになりました。通常の授業と教職課程の授業の履修は大変でしたが、仲間がいたから頑張りました。

（醸造科学科・令和3年3月卒）

## 群馬県公立中学校合格（理科）



私は農大での教職課程に取り組む中で、教員になりたいという気持ちが芽生えました。カリキュラム内の授業や実習では、同じ教職を目指す同志達と実践的に学ぶことができました。春からは農大での学びを生かして頑張ります！

（森林総合科学科・令和3年3月卒）

## 私立中学・高校合格（理科）



農大では植物から動物、菌類まで幅広く学ぶことができます。こうした知識は授業をする際に本当に役立ちました。皆さんも農大という素晴らしい環境を生かして視野と知識を大きく広げていってください。

（農学科・令和3年3月卒）

## 奈良県公立高等学校合格（農業）



私は農業教員になるために農大に入学し、農業の基礎から専門まで学びました。教員になる中で特に必要とされる要素は「学び」と「コミュニケーション」だと考えるので、皆さんも人と話す練習をするといいと思います！自分の可能性を感じ、行動しましょう！

（国際農業開発学科・令和3年3月卒）

## 東京都公立高等学校合格（理科）



最後まで諦めずに授業に出席してください。過去問や模試などで点数がなかなか取れなくて勉強するの嫌になることもあります。最後まで頑張ってください。都道府県ごとに傾向が違うので受けける県に特化して勉強してください。頑張ってください！！

（国際農業開発学科・令和3年3月卒）

## 横浜市立公立中学校（理科）



教職課程を履修する中で、同じ夢を追いかける友人たちと出会えました。学科の授業と教職課程の授業の勉強を平行して行なうことは大変でしたが、友人たちのお陰で、やりきることができました。農大で学んだことを生かして頑張ります。

（国際農業開発学科・令和3年3月卒）

## 令和3年度 教職課程世田谷・厚木キャンパス 主な年間スケジュール

- 新入生へのガイダンス<4月～5月>
- 教育委員会、東京私立中学高等学校協会担当者による学内説明会<4月～5月>
- 学校ボランティア説明会<4月～5月>
- 教育実習生の派遣<5月～11月>
- 新入生（1年次生）教職課程履修申し込み<6月>
- 介護等体験への派遣<3年次 7月～2月>
- オープンキャンパス<8月7日(土)・8日(日)>
- 令和3年度免許状更新講習の開催<8月7日(土)～11日(水)>
- 夏季若手教員研修会の開催<8月9日(振替休日)>
- 教員採用試験対策講座の開催（世田谷・厚木キャンパス）<9月～翌年8月>  
<講座全31回、模擬試験3回予定>
- 教育研究フォーラムの開催（世田谷キャンパス）<11月13日(土)>
- 教職実践演習（現地演習）学生派遣<11月～翌年2月予定>

※ 詳しくは、東京農大ホームページをご覧下さい。

## 令和3年度夏季若手教員研修会

日 時：令和3年8月9日(振替休日) 13:00～16:00

場 所：(農業科) 東京農業大学世田谷キャンパス 11号館2階教職課程模擬教室・(技術科) 7号館1階木工室

講 師：東京農業大学教職課程 (農業科) 村上敏文・(技術科) 實野雅太

研修内容：(農業科) 土壌分析：新科目「栽培と環境」に対応した簡単な土壌分析を行い、土と肥料の基礎を学びます。

(技術科) 生物育成とプログラミング：生物育成とプログラミングを複合した教材のワークショップを行います。

※ 詳しくは、東京農大ホームページをご覧下さい。

## 令和3年度 免許状更新講習

日 時：令和3年8月7日(土)～11日(水)

受講対象：中学校技術・中学校理科・高等学校理科・高等学校農業のうち、いずれかの免許状所持者

受講定員：60名（受講料 35,000円）

講義内容：必修領域 「教育の最新事情」 令和3年8月7日(土)

選択必修領域 「教育の最新事情」 令和3年8月8日(日)

選択領域 「バイオテクノロジー・プログラミングと木工・地域再生」 令和3年8月9日(月)～11日(水)

応募条件：5日間すべて受講できる方

応募方法：令和3年6月16日(水) 10:00～受付開始予定

※ 詳しくは、東京農大ホームページをご覧下さい。

## 第23回 東京農大教育研究フォーラム

開催日時：令和3年11月13日(土) 13:00～16:00

開催場所：世田谷キャンパス 横井講堂

講演者及び講演題目：東京農業大学農学部デザイン農学科教授 長島孝行

「インセクト・テクノロジーと教育」

東京農業大学教職・学術情報課程主任（国際食料情報学部国際農業開発学科教授）入江憲治

「熱帯における生物資源の利活用」

共催：東京農業大学教職課程／全国教職員部会連絡協議会 後援：東京農業大学校友会／東京農業大学教育後援会

※ 詳しくは、東京農大ホームページをご覧下さい。



東京農業大学教職課程ホームページ

<http://www.nodai.ac.jp/edu/index.html>

東京農業大学教職課程 Annual Report [令和3年度版] 世田谷・厚木キャンパス編

東京農業大学教職課程  
No.7 2021年4月20日

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1  
編集人 熊澤恵里子・實野雅太  
e-mail:kyosyoku@nodai.ac.jp



SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

東京農業大学は持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向け貢献しています。